

図書館だより

第45号 平成20年12月17日
高松工業高等専門学校図書館
TEL (087) 869-3813
FAX (087) 869-3948

新図書館長の あいさつとして

図書館長
河野 通弘



校務として図書館関係ははじめてですが、2、3年前に機関別認証評価の関係で本校の図書館を調べたことがあります。普段考えなかったことですが、本校図書館はけっこうイケテルと思いました。専門書や一般図書は10万冊を越え、学外への学術情報が簡単に得るシステムがそろっているし、館内は明るいし、建物自体耐震強化され（どこかの国の学校とちがって）安心ですね。学生の図書館利用もそこそこあるようだし、ただちょっと気になったのは、利用数が頭打ちみたいだし、学生はどのような本を借りているのかな、ということでした。

さて、図書館長のお仕事として何をすればよいのか、すこし考えるところです。図書の充実化はもちろん、学生の図書離れが指摘されて久しく、学生が図書館を利用しやすくするには何が必要なのか、香川高専になったら詫間キャンパスの学生と本校図書館利用などはどうしていくのか、などいろいろな課題がまっているようです。頑張りましょう。学生のアイデアが必要です。私を見かけたら気軽にお声をきかせてください。

(このの・みちひろ)

前図書館長から

前図書館長
権藤 典明



10月末で図書館長を交代することになりました。この間、お世話になりました図書館の係員の方や、図書委員をはじめとする学生の皆さんにお礼を申し上げます。

さて告白しますと、高校3年間の私は部活動に忙しく、学校の図書館には一度も足を踏み入れませんでした。一、二の例外を除くと、読み始めた小説なども途中で投げ出していたと思います。

そういう私でも、大学1年生のときに“1冊の本”にめぐり会い、どうしても途中でやめられず、読み耽っていたことがありました。それからは手当たりしだいに本を読みあさり、しばらくの間、いっぱい文学青年を気取っておりました。それ以来、まとまった時間がとれたときに、1冊の本を読了することが楽しみになりました。

高松高専の学生のなかにも、図書館をほとんど利用していない人がいるでしょう。もったいないと思います。君との出会いを待っている“1冊の本”が図書館にはあるはずだから。

(ごんどう・のりあき)

平成20年度 1000ページ読破記入賞者

佳作	英米文学に挑戦して	4年S組	鷗池 翔太 (うのいけ・しょうた)
佳作	詩集を読む	2年S組	森重 裕美子 (もりしげ・ゆみこ)
佳作	生きるとは何か	1年2組	是永 総一郎 (これなが・そういちろう)

応募数…190編



1000頁読破記 選評

一般教育科 国語 坂本 具償



「1000頁読破記」の入賞者3名(いずれも佳作)が決まりました。今年度の読破記の応募総数は190編で、例年より若干少ないかなという印象を持っています。では入賞作品について簡単にコメントしておきましょう。

鷗池翔太君は、今までは日本文学を中心に読んでいたようですが、今夏はダニエル・キイスの「アルジャーノンに花束を」、サリンジャーの「ライ麦畑でつかまえて」など、英米文学に挑戦ということでした。翻訳ということを通してですが、日本文学との違いなど、何か鷗池君なりに気づくことはあったのでしょうか。また同じ本を異なった訳書で読み比べてみるのもいろいろ

るな発見があるかもしれません。ぜひ挑戦してみてください。

森重裕美子さんは、詩を1000頁読破ということで、これも普段とは違ったおもしろい試みです。「他人が書いた詩とそれを読む私との間」にある「薄い壁」とは、何だったのでしょうか。「薄い」という言い方がおもしろいのですが、今夏、その壁を壊した、あるいは乗り越えたということで評者も拍手を送りたいと思います。

是永総一郎君は、「スカイ・クロラ」シリーズを読み、生きるとは何か、平和とは何かについて真剣に考察しています。「生」と「死」、「戦争」と「平和」など、世の中を相対的なものとして捉える考え方にも、納得できます。さらに哲学的な思索の世界に踏み込んでみてください。

来年度も、多数の応募を期待します。

(さかもと・ともつぐ)

1000ページ読破記 佳作作品

英米文学に挑戦して

4年S組 鷗池 翔太

今年は、メカトロやインターンシップなどでなかなか時間が取れなかったが、前々から興味があった本をいくつか読みました。千ページを読むというのは簡単そうでも意外に大変だと、この題目を4年連続で選んでいます毎年そう思います。大抵の小説ならば、上下巻で千ページをちょっと下回るくらいなので、3冊以上は最低読むことになるのですが、それがかなり大変でした。今年は、米文学と英文学の本にも挑戦してみました。翻訳された本というのは翻訳した人によって差異が生じるので、できれば複数の本を読んでみたかったのですが、時間の関係で各一冊ずつだけ読みました。

いつもは日本人の書いた作品しか読んでいませんでしたが、洋書もなかなか面白いものだと思いました。本当はロシア人の書いた「カラマーゾフの兄弟」も読みたかったのですが、時間がなかったのでまた後日読みたいと思います。今回は読んだ洋書は「アルジャーノンに花束を」、「ライ麦畑でつかまえて」です。他にも十二国記シリーズの小説をいくつか読み直しました。

「アルジャーノンに花束を」という本は、痴呆症の青年が手術をして痴呆症を克服して賢くなる話なのですが、青年が術前から術後に掛ける報告書という形のものでした。術前の痴呆症の時の周りに対する評価や感じ方が術後に知識を身につけていく上で変化していく過程が非常に面白かったです。また、術前から術後に報告書の文章の内容がどんどん知識を身につけて賢くなっていく様子をよく現していて凄いな、と思い

ました。未発達な感情と突如に急成長した知能のバランスで揺れ動く青年の苦悩が凄く巧みに表されていると思いました。

「ライ麦畑でつかまえて」という作品は他にも「キャッチャー・イン・ザ・ライ」、「危険な年齢」などいろいろな題名で翻訳されていますがこの題名の本を選びました。この小説は、主人公が成績不振を理由に学校を追い出されることをきっかけにニューヨークを彷徨う3日間を読者に思い出話のように語り掛ける様式でした。

この少年の若さからくる攻撃的な性格や欺瞞に満ちた大人たちへの非難、制度社会に対する抑鬱など自分の中でもかなり共感できる部分があったと思います。ただ、支離滅裂な文体など多少読みにくい部分がありましたが、そこもこの本の魅力だと思っています。

私が本を読む時は、その登場人物の感情なり物語の風景なり想像して読んでいます。そしてこの想像が本を読むということの一つの楽しみだと思っています。特にファンタジー、現実世界とはかけ離れた小説の場合は、いろいろな風景やその物の描写から想像することが楽しみであり魅力だと思っています。この千ページ以上読破したことでまた本を読まなくならずに読み続けていきたいと思っています。

「アルジャーノンに花束を」 早川書房 ダニエル・キイス著、小尾美佐訳 ……319p
 「ライ麦畑でつかまえて」 白水社 サリンジャー著、野崎孝訳 ……299p
 「図南の翼」 講談社 小野不由美 ……369p
 「風の万里 黎明の空」 講談社 小野不由美 ……上344・下363p

(うのいけ・しょうた)

詩集を読む

2年S組 森重 裕美子

私にとって、「本を1000ページ読む」ということは、その“本”によって難易度が変わる。好きなジャンルであればあっという間に読んでしまうし、苦手なジャンルであればまるまる一ヶ月かけなければ読み終わらない。今回はその中間を目指した。その中でも様々なジャンルがあったが、悩みに悩んだあげく「詩集」を読むことに決めた。

「詩」。そう一口で言っても様々な詩がある。喜びがあふれてくるような詩。思わず笑ってしまうような詩。悲しみを精一杯押し殺したような悲痛な詩。心を癒してくれるような詩。私が読んだ「詩」は様々なものが詰まっていた。特に印象深かったのは「姉ちゃんの詩集」。何てことない日常が飾らない言葉で綴られていて思わず笑ってしまった。しかも今こうして私が読んでいる詩を世間へと出したのがその人の弟ということに驚いた。その弟は母にこっ酷く怒られたようだが、弟さんのおかげでこうして私がこの本に出会えたのだから感謝だ。

もう一冊、気になる本がある。「世界中年会議」という本だ。普段なら絶対手を出さないようなタイトル。何故か手が伸びた。詩というものにこんなにドキドキさせられたのは初めてだった。1000ページ読破という夏の課題の中で本当に貴重な出会いをしたなと思った一冊だった。

私も中学時代よく詩を書いたし他の人の詩も読もうとした。けれど他人が書いた詩とそれを読む私との間に薄い壁がありどうしても読めなかった時期があった。

壁が何だったのかは正確には分からないが、その時期の名残であり多くの詩を読んでこなかった。それを今は悔しく思う。1000ページも読めるかなと思っていた詩集を、何てことなく、笑い癒され時には涙ぐみ胸が締め付けられるような思いをしながらあっさりとして読んでしまったのだから。もう少し早く読もうとしていたらもっと多くの詩に出会えたのかもしれないと思うと、残念だ。けどこの読破記というキッカケでこれから多くの詩と出会うことが出来ると思うと、それだけでワクワクしてくる。

この夏、たくさんの詩と出会いたくさんの思いと向き合ってきた。詩集のみで1000ページはキツイだろうと思っていたが、あえて詩集というジャンルを選んだ過去の私に盛大な拍手を送りたい。そのキッカケを与えてくれた今回の1000ページ読破には感謝の一言で一杯だ。来年の夏もこういった課題がある無しに関わらず、1000ページ読破に様々なジャンルで挑戦したいと思う。来夏も挑戦するならば、何を読むかはもう決めてある。紫式部の「源氏物語」だ。全部読もうとすれば1000ページを余裕で越えてしまうので、少しずつ読み進めていければ良いと思う。

「風にきてごらん」葉 祥明	93p
「世界中年会議」四元康祐	120p
「姉ちゃんの詩集」サマー	191p
「もしそれがわたしだったら」赤木かみ子編	94p
「落ちこぼれ」茨木のり子	125p
「弱くてもいいのよ。Ms. Royceの言葉」竹本 聖	154p
「最後だとわかっていたらなら」ノーマ・コーネット・マレック	53p
「あなたのままで」宇佐美百合子	95p
「HEART BOOK」廣瀬裕子	111p

(もりしげ・ゆみこ)

生きるとは何か

1年2組 是永 総一郎

千頁読破というのは意外とすんなりできたと思いました。千ページも読むのかと最初は思いましたが、気がついたら五百ページ、千ページと、量をあまり感じませんでした。しかし、内容は、それ以上にあったと思います。僕はあまり本を読まないで、この機会にたくさん読もうと思いました。本を読み始めると、なかなか終われないので、寝る前に読むといつの間にか空が明るくなっていくということもありました。学校があると、続きが気になっても途中で止めなくては行けないので、あまり読まなかったのかもしれませんが。夏休みは、時間を気にせず一気に本が読めたので、とても気持ちよかったです。その分感動も大きかったような気がしました。

「スカイ・クロラ」シリーズを読みました。映画化したのが、この本を知るきっかけでした。文章が短く、とてもスピード感あふれる書き方だと思いました。

「スカイ・クロラ」は、カンナミが、「ナ・バ・テア」、「ダウン・ツ・ヘヴン」ではクサナギが、戦闘機のパイロットを仕事に生きる話です。

カンナミ、クサナギは、永遠に子どもでいる「キルドレ」で、僕は最初うらやましいと思いました。年を

とらないことは、いいことだと思っていました。しかし、本を読んでいくうちにだんだん恐ろしくなっていました。人生をマラソンに例えると、ゴールするからこそ、それまでの道のりが大切になってくるのだと思います。ひたすら走り続けることは、今しか大切な物がないので、だんだん走る意味が分からなくなるのでは、と思いました。だから二人は戦闘機に乗ることを仕事にしたのだと思いました。死と隣り合わせの生活なら、今日が、輝けるからです。ショーとしての戦争と聞いて、なぜそのようなことをするのかと最初は思いました。しかし、よく考えてみると、今あるこの平和も、海外で戦争をしているから平和だと感じる事ができるのだと思います。悲しいけれど、平和というものはとても壊れやすく、不安定なものだと思いました。

この本は、生きるというのは何かと問う物語だと思っています。僕は死という目印があるから生きていると感じるのだと思いました。生と死、戦争と平和、比較するものがあって人間はその存在を知るのだと思います。だから僕は、戦争を忘れず、生を感じて、今を精一杯生きたいと思っています。

作者 森 博嗣	
書名 「スカイ・クロラ」	328ページ
「ナ・バ・テア」	344ページ
「ダウン・ツ・ヘヴン」	346ページ
出版社名 中央公論新社	

(これなが・そういちろう)

読書感想文 佳作作品

「おーい、コンペートー」を読んで

4年C組 安井 夢美

この本を読んだのは小学校以来だ。そういえば、幼い頃は何でも興味が有り、知りたいという思いが強かった。金平糖の角のでき方や、金平糖を最初に食べた日本人が織田信長であること、金平糖という花や魚があること。この本に書かれていること全てが新鮮で、一気に読み終えてしまったことを覚えている。

今、金平糖のかわいらしい外見、そして、この本の一見幼稚な表紙には、なんと多くのことが隠されていたのだろう、と改めて感じる。

「こんなこと知っていなくても生きてゆける」「テストには関係ない」そう脳が判断すると、どうでもよくなってくる。いつの間にかこんな風を感じるようになっていた自分に気がついた。そして、勉強に行き詰まり、「学ぶ」ということを違った見方で考えていた私にとって、数年ぶりに出会ったこの本は衝撃的だった。

金平糖の魅力にとりつかれた著者の中田さんは、金平糖の研究に没頭する。そんな「知りたい病」にかかった中田さんの熱意に、周りの人たちも動く。そして、春日井製菓の見学をはじめ、歴史書を調べつくし、統計学を用いた金平糖の角のでき方の数式まで作り出した。その「金平糖の角の発生」の論文は、アメリカの物理学の雑誌「アメリカンジャーナル、フィジクス」の5月号に掲載されているのである。

なぜ、中田さんは、こんなに苦労してまで研究することが出来るのか。また、一つの疑問から様々なことに発展させることが出来るのか。

中田さんの金平糖への思いと、私が抱いていた学問に対するイメージの間に、大きな隔たりを感じた。自分の気の済むまでとことん挑戦する中田さんは、好奇心や探究心を忘れない、純粋な少年の心を持った数少ない貴重な人間の一人ではないだろうか。

ところで、金平糖の角のでき方を知っているだろうか。1ミリにも満たないグラニュー糖の粒が、たらいのすべり台を何度も何度もすべりおりながら、砂糖水のしずくを浴び、途方もない時間をかけ、1粒の金平糖になっていくのである。

人間の持っている才能や可能性は大きく育てることが出来る。しかし、その才能を過剰に大事にしたり、早く育てようと急ぐと、逆に、才能は育たず、可能性のない人になってしまう。

才能や可能性を金平糖の角に例えると同じことが言える。金平糖の角も最初は大きくないが、角の出たところは次の砂糖水がつきやすく、その角はやがて立派な角になっていく。けれど、加える砂糖水の量を多く

すると、逆に角は消えてなくなってしまうのだ。金平糖も人間も、心や体が健康に成長するために必要なのは適切な量ということではないだろうか。

金平糖の角は時間をかけてゆっくりと大きくなっていく。だが、ある時期までくると形が変わらなくなり、さらに時間をかけると、ついには、角は消滅して球体になるようだ。

人間もある時期までくると、だいたいその人の性格もできあがってしまう。そして、才能とか個性にとられることのない、かわいいお年寄りになっていくのだ。

人間は生まれた時はあまり変わらないが、成長するにつれて個性が出てくる。金平糖も人間と同じように、時間をかけて個性を磨くのだ。

自分の個性を見失い、他人の個性にあこがれ、近づきたいと焦るばかりに、自分の大切な「角」を失くしてしまう人が多い気がする。

18歳の私の場合、「角」に早く気づくことができれば、まだまだ別の可能性のある新しい「角」が出てくるはずだ。そして、失敗を繰り返しながら、自分を見つめていくうちに、また他の「角」をのぼすことが出来るだろう。その「角」を大事に育てていくうちに大きな立派な金平糖、つまり人格になっていくのだとすれば、私も大きな「角」を持った立派な金平糖になれるはずだし、そうなりたいと思っている。

私の「角」とは何なのか、まだ分からないが、面白いとか究めたいと思うこと、時間を忘れて熱中出来ること、将来の目標など、「角」らしいものはいくつか育っていると考えてよさそうだ。色々な個性があるが、本当は、みんなが素敵な「角」を持った、甘い金平糖なのだろう。

テレビや雑誌など、私たちのまわりには情報がたくさんあり、知りたいと興味を抱く前に知られることが多く、自分から求めて、探り当てていく機会がほとんどなくなっている。自分で学ぶことと、授業を受けるということは違うのだ。

私は、「なぜ」「どうなるの」という好奇心、知る喜びを忘れていた。探究心を失わずに学んでいけば、得られる結果も生き生きしてくるだろう。そして、人に聞くことにより一段と人の和が広がっていくなかで、たまらない魅力だ。

もちろん、決しておもしろいものばかりではないだろう。けれど、それは一生涯懸命「角」をのぼしていつか時期なのだなどと考えると、とても楽しく思えてくるのだ。

中田友一「おーい、コンペートー」あかね書房

(やすい・ゆうみ)

本等との出会い

声と生き様



一般教育科 物理 沢田 功

彼女はよくめがねを替えた。彼女の目に引き込まれると、スカーフやセーターの柄にまで、気が回らなかつた。目の据え方が僕を正直にさせ、僕は彼女に素直になった。お茶を飲んだ時、美術に興味があったと言っていたので、そうでなかった僕は、めがねをおしゃれにするのか、と教室を後にしたことがある。

彼女の声にはほかの女性にはない、存在感があった。遊びがなく、直球勝負で、掛け値もなく、強引でさえあった。お見合いをしたが頑として断つたと聞いて、岩みたいの人なんだと理解できた。この人でいいと僕に自信がわいた。だからこそ、時間を共有できたと思う。

彼女は文藝春秋の平成16年10月号、「日本を震撼させた57冊」の1冊、「なんで英語やるの?」(昭和49年午夢館、昭和53年文春文庫)を書いた、中津煉子である。彼女の訓練はアルファベットのABCの発声から始まった。授業料は年額20万円ほどで、訓練初日、僕は「元を取ります」と言った覚えがある。

「訓練をしていて成果がでなかったら、去つても仕方ない。私は追いかけない。それが訓練だ」と彼女は

ぎっとして言い放つた。ぎよつとしたが、僕は「発声」にはまっていた。そして、「声には人の生き様に乗る」と教わつた。

2年経って、大学院で物理をするため、僕は大阪から名古屋に移つた。自分をうまく伝えるには、どんな英語が必要かを考え、彼女の訓練を受けたが、肝心の物理がない、では元も子もない。

大先輩の益川さんのように、まったく英語ができなくても、超優秀ならば物理のみで生きていける。しかし、僕はそんな人間ではない。コネを強める信用のなかった僕は、コネを自分で作らねばならぬ。説得して、わかしてもらえて、元気があるねと言われた時には、ようやく自分の物理を人にうまく伝えられたか、とほつとした。

思えば、はっきりと元を取るのに、10年近くかかってしまった。それからさらに10年、国際会議や海外に行くたびに、人にひかれている自分に気付く。物理学者にも「声と生き様」があるのだ。

彼女は最近、「英語と運命」(平成17年三五館)をまとめ上げた。読み入り、彼女の生き様がまた、くつきりした。僕には今尚、「めがねのおばちゃん」だが、まだ若い。そう思つたら、声が聞きたくなつた。

(さわだ・いさお)

チーズはどこへ消えた?



建設環境工学科 北農 幸生

迷路の中に住む2匹のネズミと2人の小人。大好きなチーズもあって、幸せに暮らしていました。ところがある日、大切なチーズが消えてしまったのです。さて、ネズミと小人は…。数年前にベストセラーになった「チーズはどこへ消えた?」のお話です。話の内容としては、チーズがどこへ消えたのかを解き明かしていく…というものではなく、大切なチーズが消えてしまったとき、どういった行動をとるべきかという教訓を、物語を用いて表現したものです。

チーズとは、自分にとって大切なもの。友人とか、恋人とか、仕事とか。それだけではなく健康から生活環境にいたるまであらゆるものの象徴と受け取ることができます。野球部員であれば甲子園出場という目標、就職活動中の学生であれば第一志望の会社への内定、といったものもチーズにあたるかもしれません。それがあつた日突然消えてしまうのです。すっかり落ち込んでしまう人もいるでしょう。でも、「チーズはどこへ消えたか」「なぜ消えたか」などと考えすぎるな。そうではなく、新しいチーズを探そう。「変化」はそんなに怖いものではない。と、本書は言いたいようです。

ビジネス書としては最もページ数が少ない部類であり、読書に慣れていない人にとっても、読み易い内容になっています。前に進めず立ち止まっている人は是非読んでみてください。また、一度読んだ人でも、人生その時その時で大切なものは変わるのでしょうから、時間を置いて何度か読んでみるのもいいでしょう。少し心を落ち着けて冷静に自分自身を見つめられる機会をこの本から得ることができると思います。

私はこの本と出会うことで、変化を前向きに捉えるという新しい考え方(新しいチーズ)を得ることができました。と同時に、例え環境が同じでも、自分自身の考え方が変われば、自らの手で問題は解決していくということを学びました。

学生の中には、高専生活に嫌気が差している人も少なくないでしょう。この本を読んで今すぐ自分の環境を変えたくなる人もいるかもしれません。でもその前にもう一度、自分のチーズが何かを見極め、この環境で今自分に何ができるかを考えてみてください。私の好きなMr. Childrenのひびきという曲に、次の様な歌詞があります。「見つからなかった探し物はポケットに入っていました。」「幸せなんかそこら中いっぱい落ちてるから欲張らずに拾ってごう」

案外、身近なところにもまだまだ美味しいチーズはたくさん転がっているものです。

(きたの・ゆきお)

私の推薦する図書

ちょっと待って、そのコピペ！ ▶ 新着

林 幸助 (実業之日本社)

著作権ということば、耳にはするけど実態はよく分からないものです。技術の進歩で個人があらゆるものを簡単に複製することのできる現在、知らず知らずの内に著作権者の権利を侵害しているかもしれません。具体例を取り上げ、Q&A形式で書かれた読みやすい本です。

制御情報工学科教員 平岡 延章

効率が10倍アップする新・知的生産術
—自分をグーグル化する方法—

勝間和代 (ダイヤモンド社)

19歳で公認会計士試験合格。21歳で出産。現在、3女の母で40歳。現代日本で最もパワフルな女性の考え方が詰まった本。とにかくこの本に触れてほしい。一読の価値あり。印象に残った言葉を紹介する。「情報こそが現代の通貨である。どんなにいまお金を持っていたとしても適切な情報を持っていないければお金を簡単に失ってしまう。現代は資本主義であるが情報主義でもある」

総務課 高木 甲介

頭痛のタネは新入社員 ▶ 新着

前川孝雄 (新潮新書)

「えっ？もう辞める？」ネットとケータイを駆使してシューカツ戦線を勝ち抜き、希望の企業に入社したはずの新入社員からメールで突然の辞意表明。「大人免疫力」の低下が著しい昨今の若者の思考パターンを分析し、その症状に対する処方箋を列挙した名著です。

制御情報工学科教員 相馬 岳

骨から見る生物の進化 ▶ 新着

ジャン＝パティスト・ド・バナフィュー (河出書房新社)

写真集は、こんにち地球上に生きている脊椎動物の骨格を、白黒写真より立体的に見せることができ、神秘的な形の美しさと動物の奥深い構造を伝えている。この脊椎動物の類縁関係にある骨格を知ることによって、進化のメカニズムと、進化の持つさまざまな側面が理解できるでしょう。

建設環境工学科教員 松原 三郎

飛躍するドイツの再生可能エネルギー ▶ 新着

和田 武 (世界思想社)

本書には、ドイツにおける再生可能エネルギーの急速な普及の状況が書かれている。政策により誘導することで、市民レベルでの普及運動が促進されている状況がよく分かる。今後の環境問題を考える上でも参考になる本である。

電気情報工学科教員 鹿間 共一

未来創造堂 未来を切り拓いたモノ創り ▶ 新着

日本テレビ出版部 (日本テレビ放送網)

「未来創造堂」というTV番組の内容をまとめた本です。●HKの「プロ●エクトX」のバクリのような気がします。が、「日本人」が達成したモノづくりの成果が活字になって紹介されるのは、気持ちのよいものです。TV番組と同じような感動が得られるか？、一読して下さい。

制御情報工学科教員 由良 諭

建築家安藤忠雄 ▶ 新着

安藤忠雄 (新潮社)

直島の美術館の設計者である著者は、高卒でプロボクサー上がりという異色の経歴でも知られる世界的な建築家。文字通り、自分の道を自分の手で切開いてきた、といえる人だと思ふ。

そんな人の自伝が刺激的でないはずはない。モノクロながら作品の写真も豊富に掲載されていて、建築やデザインの本としても楽しめる。

一般教育科教員 高橋 宏明

イサム・ノグチの世界

綿引幸造 (ぎょうせい)

地球を彫刻することに夢見た20世紀を代表する彫刻家、イサム・ノグチは、札幌郊外の文明のゴミの処理場であったモエレ沼を、市民の憩いの公園にすべき広大な空間デザインの構想を描いた。また、彼は1969年から香川県の牟礼町にアトリエ住居を設けて、大きな石の彫刻を制作し続けた。

建設環境工学科教員 松原 三郎

「世界征服」は可能か？ ▶ 新着

岡田斗司夫 (ちくまプリマー新書)

アニメや特撮に登場する悪の組織の至上目標「世界征服」は本当に可能なのか？元ガイナックス代表取締役である著者が、昔のアニメや特撮の事例をシニカルかつコミカルに引用しながら読者を笑わせてくれます。仕事や勉強に疲れた時の清涼剤としてどうぞ。

制御情報工学科教員 相馬 岳

Oxford Picture Dictionary: Monolingual ▶ 新着

Oxford Picture Dictionary: English/Japanese

Jayme Adelson-Goldstein, Norma Shapiro
(Oxford Univ. Pr.)

学校、家庭、街中、病院…、あらゆる日常場面が描かれた絵本です。写真とイラストの中間で見ていて飽きない図版が特徴。日常場面で状況に応じた英語表現を知るには最適かも。Monolingual 版がオリジナルで、英日や英中、英仏、英アラビアなど、2ヶ国語版が多数あります。

制御情報工学科教員 平岡 延章

そろそろ旅に ▶ 新着

松井今朝子 (講談社)

弥次さん・喜多さんの珍道中物語「東海道中膝栗毛」は、江戸時代屈指のベストセラーだった。この本は、その作者十返舎一九が、なぜ「膝栗毛」を書くに至ったかという小説。

直木賞を取った前作「吉原手引草」が面白かったので、軽い気持ちで読み始めたけれども、この本は実は、自分が自分であるために出会わなければならないものを求める過程を描いた、優れた青春小説だった。おすすぬ。

一般教育科教員 高橋 宏明

茨の木 ▶ 新着

さだまさし (幻冬舎)

著者の描く小説は、どの作品も読み終えた後に温かい気持ちになれます。本作品も父の形見のヴァイオリンのルーツを求め旅の途中で出会う様々な人間模様を描いた温かい作品です。最近どうにもギスギスしがちな心をやわらかくしてくれるかも知れません。

機械工学科教員 吉永 慎一

私の推薦する図書

覇者と覇者

新書

打海文三 (角川書店)

一つの戦争が、終結を待たずして永久に閉ざされてしまった。「裸者と裸者」「愚者と愚者」に続く架空戦記小説の最終巻「覇者と覇者」が未完の遺作として刊行されたのだ。打海文三氏の死を悼おと同時に、彼の描いた日本にも追悼を。さよなら、ありがとう。

4年E組 矢野 正人

モンスターハンター

ゆうきりん (ファミ通文庫)

モンスターハンターは今、大人気のゲームの一つですが、小説でもその楽しさは、かわりません。小説には小説のモンスターハンターの楽しさがあり、ゲームとは違った興奮を知ることができるでしょう。

4年C組 中井 大貴

我が呼び声に応えよ獣
魔術士オーフェンはぐれ旅
秋田禎信 (富士見ファンタジア文庫)

10年以上前の作品ですが…。
モグリのお金貸しオーフェンが金を貸している知人から金儲けの話を受けて、とある金持ちの屋敷に行った。ところが、その屋敷に行って出会ったものは、怪物だった。しかし、その怪物はオーフェンが長年追っていた怪物だった。…。

人により好みは違うと思いますが、おもしろいと思うので一度読んでみてください。

「我は放つ 光の白刃」

3年E組 大前 知史

流れ星が消えないうちに

橋本 紡 (新潮社)

この物語はもしかしたらどこかに転がっているかもしれないようなそんな物語です。

感動するとか、読んでいて楽しいとか、そんな部類ではないけれど、胸の奥になんとなく残るそんな物語です。

2年M組 中川 夏希

タフガイのタフガイによる
タフガイのための日記

定金伸治 (徳間書店)

京都大学大学院卒業の小説家、定金伸治が日常をおもしろおかしく綴った日記。その日記に久留米高専出身の乙ーや定金の友達の小説家たちがツッコミを入れる。電車の中で読むのは厳禁です。知らない人たちの前でニヤニヤしながら読んでしまいます (笑)。それぐらいおもしろいです。勉強の一休みに最適な一冊。

総務課 高木 甲介

かもめのジョナサン

リチャード・バック (新潮社)

多くのカモメにとって、飛びこは餌をとる手段でしかない。その中で、主人公のジョナサンは飛び行為に価値を見いだした。そして、飛びことを追求し続けたジョナサンは群れから追放されてしまう。飛びということはどういうことなのだろうか？

電気情報工学科教員 中山 仁史

マイクル・クライトン全作品

これは追悼文である。
彼の小説群は不朽の最高速を誇り、見識高く現実を激励した。だが、もはや一群は加速することなく、唯、世界の変容を待つ。
此処に黙禱を捧げる。偉才の小説家、マイクル・クライトンに黙禱を。

4年E組 矢野 正人

夏帽子

新書

長野まゆみ (作品社)

主人公は、臨時の理科教師の瀬野先生。
“皆、夜夫を見てごらん。彗星が白っぽく煌いていだろう。” — 作中より
この本は、彼の風変わりな授業や生徒たちとのふれあいを描いた短篇集です。宮沢賢治を思わせる文章に、“筆記帳” “石炭皮” といった、著者独特の言葉使いがとてつもなく素敵で、私の大好きな作品です。

2年S組 川田 直美

図書委員会から

古本市について

4年E組 矢野 正人



今年の音楽祭は図書委員会から古本市を出店させて頂きました。何分古本ばかりですので、人気作品や最近の作品などはありませんが、しかし足を運んで下さった皆様のおかげで、私たちの予想を超えた盛況と相成りました。この場を借りてお礼申し上げます。

さて、私どもの古本市にある本は、図書委員や有志

から提供してもらったものばかりですが、不思議と新古書店には見受けられないような味のある集まりとなりました。感謝の極みです。しかしともすれば、それ以上の美味が本物の古書店では堪能できるのでしょうか。実は図書委員長を務めているながら、古書店経験はとてつもないのです。下鴨神社の古本まつりとか神保町とかを勝手に人外魔境と思いついて生きています。すみません。

けど、ほんと、西沢書店とかねこざんまいに行ってみたいです。では、

(やの・まさと)

■図書新着紹介

書名	分類記号	著者名	書名	分類記号	著者名
ちょっと待って、そのコピー著作権侵害の罪と罰	021.2	林幸助	工場長養成塾ハンドブック	509.5	名古屋工業大学工場長養成塾編
生活を哲学する	104	長谷川宏	環境汚染で減びないために	519	坂口謙吾
感覚・知覚実験法	141.2	岡嶋克典編集	ベテラ技師が教える機械加工現場/ノウハウ100選	532	斎藤勝政
スローライフでいこう	159	エグナット・イーシュワラン	目で見てわかる機械現場のべからず集	532	澤武一
ギザの大ピラミッド	242	ジャン=ピエール・コルテジアーニ	映像メディア技術	547.8	八木伸行監修
集中講義Iアメリカ現代思想	309.0253	仲正昌樹	MATLABと実数でわかるはじめての自動制御	548.3	熊谷英樹
アメリカ人の半分はニューヨークの場所を知らない	320.53	町山智浩	料理のなんでも小事典	596	日本調理科学会編
カモメになったペンギン	336.3	ジョン・P.コッター	名作の戦争論	704	川田忠明
頭痛のタネは新入社員	336.4	前川孝雄	もっと知りたい尾形光琳	721.5	仲町啓子
空気の読み方	361.3	神足裕司	もっと知りたい後屋宗達	721.5	村重寧
結婚難民	367.4	佐藤留美	「開運!なんでも鑑定団」の十五年	756.8	中島誠之助
アキハバラ発「00年代」への問い	368.7	大澤真幸編	かたちの日本美	757	三井秀樹
蛇饅頭	387	ヴァールブルク	宮崎駿の時代	778.77	久美薫
理科年表 2009年版	403.6	東京天文台編集	「世界征服」は可能か?	778.77	岡田斗司夫
科学・考えもしなかった41の素朴な疑問	404	松森端夫編著	文学の読み方	901	J.ヒリス・ミラー
スマリヤン先生のプール代数入門	411.73	Raymond Smullyan	生きてるものはいないのか	912.6	前田司郎
エンジニアのためのベクトル解析	414.7	富田信之	半日で読む源氏物語	913.36	吉野敬介
はじめての統計学	417	鳥居泰彦	風と光と二十の私と	913.6	坂口安吾
確率の哲学的試論	417.1	ラプラス	天地人(天・地・人の巻)	913.6	火坂雅志
ほかほかのパン	420.28	太田浩一	庵堂三兄弟の聖職	913.6	真藤順文
相対性理論	420.8	江沢洋	京大芸人	913.6	菅広文
現代物理学がわかる10章	421	メンデル・サククス	楊令伝 第7巻 驍騰の章	913.6	北方謙三
物質と光	421.3	ルイ・ドゥ・ブロイ	桜の森の満開の下	913.6	坂口安吾
力学	423	為近和彦	覇者と覇者	913.6	打海文三
圧縮性流れの理論	423.8	E.ラサクリシュナン	モダンタイムス	913.6	伊坂幸太郎
熱・統計力学	426.5	為近和彦	地図男	913.6	真藤順文
ガリレオ	440.2	ジャン=ピエール・モーリ	宿屋めぐり	913.6	町田康
Google Earthでみる地球の歴史	448.9	後藤和久	みぞれ	913.6	重松清
地球進化論	450	松井孝典	茨の木	913.6	さだまさし
カーボン・オフセット	451.85	國田かおる編著	キュア	913.6	田口ランディ
光合成とはなにか	471.4	園池公毅	黄色い目の魚	913.6	佐藤多佳子
自我の起源	481.7	真木悠介	パレード	913.6	吉田修一
理工学系からの脳科学入門	491.371	合原一幸	夏帽子	913.6	長野まゆみ
大人が知らない子どもの体の不思議	498.7	榎原洋一	縁切り神社	913.6	田口ランディ
熱流体工学の基礎	501.26	井口学	アリス狩り	930.26	高山宏
絵とき金属疲労基礎のきそ	501.41	佐藤建吉	それ自身のインクで書かれた街	931	スチュアート・ダイバック
未来を切り拓いたモノ創り	502.1	日本テレビ出版部	アシェンデン	933	モーム
「もの」から「知財」の時代へ	507.2	平塚三好	ザーカス象に水を	933	サラ・グルーエン
技術レポート作成と発表の基礎技法	507.7	野中謙一郎 ほか			

図書館からのお知らせ

◆ 年末年始の開館時間等について

年末年始の開館時間等は、下記のとおりですので
よろしくお祈りいたします。

12月25日～26日 9:00～17:00

12月27日～1月4日 終日閉館

1月5日 9:00～17:00

1月6日～平常通り 9:00～20:00

◆ 冬季休業中の長期貸出について

恒例の冬季休業中の長期貸出(学生のみ対象)を
下記のとおり行います。

貸出開始日:12月17日(水)～

返却期日:1月7日(水)

貸出冊数:20冊まで貸出OK

編集後記

11月に図書館長に就任してその1ヶ月間にさまざまな貴重な経験をしました。この「後記」を書いているのもそのひとつですが、なかで印象に残ったことは、夏休み1000頁読破記の入選作の小評をしたことと中四国高専図書館長会議が本校で開催されたことです。どちらも図書館の役割を考えさせられました。利用しやすい図書館であることはもちろん、図書館が何か期待をもてそんな場所であってほしい、という思いを強くもちました。この「図書館だより」もそのような目でみると今までとちがったものに感じられます。これからもこの可憐な小冊子をよろしくお祈りいたします。

(図書館長)